

NU-COIL LETTER

POWER OF COLLABORATION

VOL.1



藤掛 千絵 Chie Fujikake

【国際産官学連携PBL 科目】

第3クォーターに開講しているPBL COIL（国際産官学連携PBL）は、企業や団体の担当者と海外の大学の先生と担当教員（私）で打ち合わせをして授業の計画を立てます。私は組織のダイバーシティに関連したテーマの授業をNU-COIL初年度から実施しているのですが、実際、「ダイバーシティ」とか「コラボレーション」と一言でいうほど実際の現場はきらびやかでもシンプルでもありません。時には打ち合わせや実施プロセスも混沌としていて、形にしたり人をまとめたり、合意形成をはかる中で、「大変だなあ・・・」とため息が出てしまうこともあります。

ただ、いつも変わらず念頭にあるのは、実質ほぼ「ボランティア」で協力してくださる企業・団体の皆さんへの感謝の気持ち。それと最後に学生たちに、「この授業をとってよかった」と学生生活を振り返った時に思い出してもらえようようなプロジェクトにしようという私の個人的な野望(?)です。

結果的には、こうしていろんな人と関われるコミュニティラーニングのような形態の授業は、学生の社会への帰属意識も高めることができ、印象深い学びとして振り返ることが出来ているようです。海外の学生とつながれることも、大きな意義があります。例えば「バリアフリー」とか「バリアフリーマップ」という言葉がアメリカの学生には通じないことが意見交換を通してわかりました。「ユニバーサルデザイン」という言葉については、知っている学生もいるようでした。そこから、互いの国における障がい者に関する法律や制度について調べて議論を深めていくことになります。

私が担当しているPBL 3科目は、テーマは違っても根底にあるものはわりと共通していて、複数科目履修してくれている学生はそれが少しわかってくる時期かもしれません。またそのうち時間を見つけて、学生たちとみんなで話し合ってみたいと思っています。